

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



放牧を排除して10年、霊丘自然植物園では見違えるほど植物が育ってきた

Contents

- GEN 第15回会員総会のご案内 P 2
- GEN 事務局員募集 P 2
- 春のワーキングツアー報告 P 3~6
- 夏のワーキングツアー募集 P 3

2009.5

127

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第15回会員総会のご案内

中国は緑化に熱心、というところ意外に思われるかもしれませんが、ところが、人工造林面積は世界のトップ。世界の人工林年間増加面積の50%以上を中国が占めるそうです。

大同でも、道路沿いの並木や公園の市街地緑化から、雲崗石窟周辺の観光地、そして山地・丘陵地の造林まで、ものすごい勢いで木が植えられています。これはどうかと思うようなものもありますが、造林の面積では、GENの実績など埋もれてしまうほどです。

ところが中国国内では、緑化が進んだというけれど面積ばかりで質がともなわず、天然林は減少して人工林ばかりが増加し、生態系や治水面では問題だという意見もでているようです。

そんななかで、今年10年を迎えた霊丘自然植物園(南天門植物園)は、自然の植生の再生を視野に入れた、GEN

独自のユニークな取り組みです。初期は草もまばらで、遠目に見える樹木はほとんどありませんでした。いまでは日本の里山にいるのではないかと錯覚するぐらい、草も木も育っています。

立花代表が就任時に「植物園つくるんやったら代表をひきうけましょ」といわれた、こだわりの植物園。自生樹種の保全、造林樹種の多様化、技術者の育成などいくつもの役割もっています。生みの親の立花代表、昨年春からはじめた植生調査の陣頭指揮をとる前中顧問に、高見事務局長もくわわって、その意義・役割と現時点での成果を語り合う記念シンポジウム、おおいに楽しみにしてください。

【緑の地球ネットワーク

第15回会員総会】

- 日時：6月13日(土)13時30分～16時40分

○記念シンポジウム：13時30分～15時
『霊丘自然植物園の10年～構想とこれまでの成果』

立花吉茂さん(GEN代表・花園大学客員教授)

前中久行さん(GEN顧問・大阪府立大学大学院教授)

高見邦雄(GEN事務局長)

○会員総会：15時20分～16時40分

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター(大阪市港区弁天1-2-2-700 オーク2番街7F Tel.06-6577-1430 JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅より直通通路あり)

●総会終了後の懇親会は調整中です。お問合せはGEN事務所まで。

●会員の方にはあらためて案内をお送りします。

●GENの会員総会、記念シンポジウム、懇親会には、会員以外の方もご参加いただけます(会員総会での議決権は会員のみにあります)。参加ご希望の方はGEN事務所までご連絡ください。

GEN事務局員募集!

詳しくは8ページでお知らせしていますが、会田さんが退職することになりました。GEN事務所としてはおめでたくもあり、貴重な人材を失うのが悲しくもあり。会田さんの役割を引き継いでくれる新戦力1名を募集します!

- 正職員(試用期間6か月)
- 給与：年間270万円(年齢・経験等を考慮します)
- 社会保険あり ●交通費支給
- 土日祝休み(イベントなどで出勤の場合あり)夏期/年末年始休暇あり
- 勤務開始時期は相談のうえ決めますが、6月より開始可能な方を歓迎
- 社会人経験のある方
- 中国語に堪能な方(中国滞在経験のある方を歓迎します)
- 年間50日程度の中国出張が可能な方
- パソコンの基本的スキル要
- 職務内容：現地カウンターパートとの連絡調整/ボランティアツアーの受け入れ/事務局員としての活動全般

★履歴書、職務経歴書、志望動機(A4サイズ1～2枚程度)をEメールまたは郵便でお送りください。書類選考通過者のみ、応募日から2週間以内に面接のご連絡をいたします。提出書類は返却しません。問合せはEメールでお願いいたします。

GEN自然と親しめ会

比良山馬が瀬山で 森づくり体験

- 日時：5月24日(日)10時から15時ごろまで
- 場所：滋賀県比良山麓の馬が瀬山国有林
- 集合：10時JR湖西線「北小松」駅前
- 指導：NPO法人自然と緑
- 作業内容：スギの間伐・皮むき、下草刈り、自然観察等
- 定員：20名(先着順)
- 参加費：700円(保険料を含む、交通費は含まない)
- もちもの：昼食、飲み物、敷物、雨具、

タオル、軍手、作業のできる服装・靴

●申込締切：5月20日までにGEN事務所まで
NPO法人自然と緑が森づくりを進めている馬が瀬山国有林での作業に参加させていただきます。

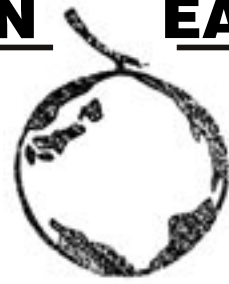
里山整備に関心はあるけど、遠いし、経験はないし…と気後れすることはありません。鉄道の駅から徒歩で行けますし、それぞれの体力にあった作業を指導していただけますので、この機会にぜひご参加ください。

助成等が決まりました

- 日本経団連自然保護基金から、440万円の助成が決定しました。(「多様性のある森林再生第4期(苗圃建設と運営)」)
- (独)国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業(草の根パートナー型)の2009年度事業費として、1,377万円が決定しました。(「太行山地区における多様性のある森林再生事業(第3年次)」)

よく働きました！

春のワーキングツアー報告



今春の大同は、GENのツアーのときには土が凍っていましたが、あつという間に暖くなって、ツアーシーズンの後半は気温の上昇と植樹の競争になりました。樹木医調査団（11名、3/21～27）、GENのワーキングツアー（20名、3/28～4/4）、イオンリテール労組（18名）・サントリー労組（11名）合同ツアー（4/14～19）、東北電力総連（20名、4/14～21）、自治労大阪府本部（26名、4/25～29）のツアーのほか、三洋電機労組、（株）チュチュアンナの視察など、多くの人が黄土高原を訪れました。人手が足りない白登苗圃、かけはしの森、環境林センターではどのツアーもしっかり働きました。ここでは、GENのツアー日誌からの抜粋と、イオンリテール労組、サントリー労組からお寄せいただいた感想を紹介します。

【3月28日】出発→大同へ

●いよいよ黄土高原に向けて出発。北京で東京組と合流、北京空港をあとに大同へ。バスの車窓から目につくのは、黄色い大地と、そこでの中国の人々の営み。そこに住む人たちの息づかいが聞こえてきそうになる。

高速をおり、ひたすら西に向かうと、目につくのは道路の両側に植えられた植林のあと。かれているもの、大きくなっているもの、延々と続く植栽……。しかし、その向こうの斜面は、山頂まで続く茶色の山、山……。納得できないものを感じていた。

明日の気温は-5℃～3℃と聞く、身ぶるいしながら、さあ、がんばるぞ～～！（白川洋二）

【3月29日】霊丘自然植物園

●歩いた！登った！木も植えた！南天門への階段は感謝、感謝です。吃水不忘打井人です。

昼食 BIG カップラーメン。りんごも Good！

上北泉村へ

寒い中、橋の上から多数の子どもたちが並びビックリです。こんなに多数の子どもは7年前は見えていない。この村に対する貢献の大きさがわかります。

ショーアップされた演出、構成。いや～すごい！豊かな村です。モノもさることながら、心が豊かです。

ホームステイ 潭さん宅

メインディッシュはうどん。これがなかなかのもの。お腹満タン絶好調！

遠田先生、酒井さんのお陰で言葉の不自由はありません。

今日の教訓

ビジョンを描いて先へ進もう。成功のためには3つのKeyが重要です。

さて、自分にとって3つのKeyは何でしょう！

ビジョン 勇気 楽しむ ことか

2009 夏の黄土高原ワーキングツアー参加者募集

2年ぶりの夏の黄土高原ワーキングツアー、今回の目玉は夏の霊丘自然植物園です。そうそう、南天門植物園と改名したんでしたっけ。植物園では昨年春から継続調査を開始、樹木の成長ぐあいはこれでカバーできますが、足下に茂って花を見せてくれる草本類はいったい何種類あるのか？これを調べるために植物採集・標本づくりに挑戦します。高山植物をはじめきれいな花々に出逢えるのも楽しみです。また、環境林センターをはじめとするGENならではの数々の緑化協力拠点では、沙漠化地域の緑化のむずかしさやさまざまな工夫をごらんください。

●日程：8月1日（土）～8日（土）7泊8日

●訪問地：中国山西省大同市（北京経由）

●旅行代金：178,000円（関西空港発着）

*国際航空運賃、航空保険料、中国国内での交通費／食費／宿泊費を含みます。

*旅券取得費用、個人行動時の費用、旅行保険料は含みません。

*関西空港使用料、中国空港税、燃油特別付加運賃は別途お支払いください。合計で5,000円程度になりますが、原油価格・為替相場の変動に伴い変更される場合があります。

* GEN年会費（一般＝12,000円、学生＝3,000円）は別途お支払いください。

* 成田発着便ご希望の場合は追加料金24,000円が必要です。

●利用航空会社：中国国際航空（CA）

●募集予定人員：35名程度（先着順）

●最少催行人員：12名

●申込み締切：6月25日（募集予定人員に達し次第締切ります）

●添乗員：同行しません。

*緑の地球ネットワークのスタッフが1名、関西空港から参加する予定です。

●旅行企画・実施

エアワールド株式会社（国土交通大臣登録旅行業第961号 日本旅行業協会（JATA）会員 〒540-0026 大阪市中央区本町2-214-207号）

★詳しい資料・申込み書類をご希望の方は、GEN事務所までご連絡ください。

エアワールド（株）代理業・（株）マイチケットから、書類をお送りします（6月以降になります）。



水を運び、邪魔な石を運び、子どもたちはよく働く

も？(石井修一)

【3月30日】霊丘県上北泉村

●今日は桃の植林をしました。地元の子どもたちもいっしょでした。ホースから水がもれているところがあったのでバケツにその水を入れてあげたりいっしょにかついで桃に水をかけたりしました。

この子どもたちが公立の学校の子だと気づいたのは、お昼からの小学校の交流の時でした。

この村では私立の小学生が圧倒的に多く他の地域からも寄宿しているとのこと。そして子どもたちの踊る衣装や化粧、そしてBGMと、私立の子どもたちのプログラムと公立の子どもたちの差はすごすぎました。

こんな村にも格差社会が…と見ていて辛いものがありました。この村はここ10年で大きく変わり、「前にはこんな建物はなかった。」と他の方が言われるくらい豊かになったそうです。

豊かになれば必ずそうではない層が出現するのは世の習いですが、急変する流れに村の人々はどう順応していくのでしょうか。

夕方、霊丘に戻ってきました。夕食



子どもたちといっしょに楽しく踊ったけれど、格差に胸が痛む

まで時間があつたので。大原さんと松下さんと3人で街中を散策。最初に入った「超市」では、15才くらいの店員さんが「どこから来たの？」と声をかけてくれて「日本から」というとおつりをおまけしてくれました。10元の買いものなのに0.5元もまけてくれたら店の収益が！

大原さん

が「どこのお店でもこんなふうに愛想がよかつたらいいのに」といってましたが、文房具屋さんに入ったときにもお店の人に「日本人！」とおどろかれ、店内にいた子どもたちもザワついていました。ちょっと霊丘の人たちいい感じかも。少しだけでも勉強していた分、中国語もなんとか話せたと、

聞いている言葉の中に知っているものがあればそれだけでうれしかったです。(藤田京子)

【3月31日】渾源県呉城郷

●12時すぎ、アンズの果樹園に到着しました。バスの中が暖かかったのもあると思いますが、とにかく寒い！昨日より風の強さと冷たさが増し、手がかじかんでいました。

アンズ果樹園の方のお話で、アンズは食糧をつくるより収入を得られる(しかも約10倍!)と聞き驚きました。現在の課題は「どうすれば花が凍らないか？」だと話しておられました。どうすれば……色々案は浮かびましたが、現実的なものはありませんでした。

今日の最高気温は3度だそうで、果樹園の方にとっては嬉しい寒さだとききました。去年は花開いてからの寒波でかなりのダメージ受けたとのこと。今年はアンズにうまく実をつけてもらいたいと思います。果樹園のみなさんの願いにぜひ応えて！

道中バス車内、高見さんの

お話。「没法子(メイファーズ)」という言葉には「仕方がない」という意味の他に「なんとかなるさ」という意味が込められている、と。アンズが寒波にやられてダメになっても、「没法子」。中国の方のそのおおらかさ、根本的に前向きな姿勢、考え方はすごい！と思いました。マイナス思考に陥りがちな日本人とは根っから違うな～、ぜひ、その部分を見習いたいです。(あまり大雑把すぎるのも困りものですが(笑))。(松下鮎美)



カササギの森では500本のマツを植えた

【4月1日】白登苗圃、かけはしの森、カササギの森

●昼食後はカササギの森へ。ここでの植栽方法は非常に合理的でおもしろく、個人的にはややテンションupしてしまいました。

ポイントとしては、

- ・溝を掘ることで、斜面を流れる雨水を捕捉し、それが凍って翌年の春再びとけることで樹木に水分を供給する。
- ・菌根菌を接種することで、水分、栄養分の利用効率をよくする。
- ・サージヤムレスズメなど、肥料木と呼ばれる、窒素固定菌と共生するものと混植することで、養分状態を改善する。という感じだったと思います。

それから、霊丘で見たのと同じ年のリョウトウナラ達の成長が、ここでは明らかに遅いことが驚きでした。植物ってすごく露骨なんですね。この1年では少し多い目に伸びたそうで(20cmくらい)、今後の成長や土壌条件の改善が楽しみだなあと感じました。(大原一晃)

●今日は終日快晴。360度全く雲の無い1日でした。

遠田先生曰く「大同では雨が降るの



環境林センターでは約240本のシダレニレを移植

が良い天気」。大同では昨年末から全く雨が降っていないとのことで、私も雨を乞わずにはられません。普通の旅行なら忌み嫌う雨が今日ばかりは恋しかった。

今日の行程は午前が白登苗圃での見学とトウヒの植樹、午後がカササギの森での見学と松の植樹。白登苗圃での植樹は土が凍っていて、スコップがほとんど役に立たず。

改めて大同の厳しい環境を実感した。カササギの森ではカササギが飛んでい

て、「名に違わず」の感があったが、まだ森とは呼べない木の高さで、今後の生育に期待します。

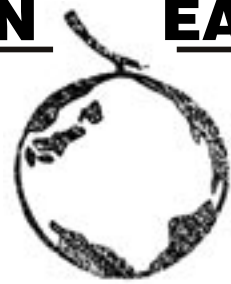
カササギの森では全員で松の苗木を500本植えた。この作業はこれまでに無かった作業量の多さで、ちょっとくたびれた。(大川常吉)

【4月4日】帰国

●1週間があつという間でした。人はいくら旅に出ても自分の持っているもの以上のものには出逢わないものです。しかし、他のもつその火にあたるのが他火(たび)という。自分はどんな他の火、他火(たび)になったのだろうか？

美しい村は貧しい。そんな美しいカササギの森で植樹をしたとき、挙家離村した村を見学。すべて人力でまさに耕して貧乏に至る生活をしてきたのだと生きる力のすごさに脱帽した。

農業問題とは農家の問題ではなく都



会の問題だと思っていた。つまり百姓が農業をやめて困るのは都市の人間であって、百姓は自分のものを作ればいいし、それで困ることはないと思っていたのだが、自分の食いつぶちまでも確保されない靠天吃飯(天に依ってメシを食う)の黄土高原の村では、生きる=食べるという最低条件さえ満たされていない、農業=バクチの世界に生きている。深い深いタメ息が出たものだった。

地球環境の保護のためにできる最良の方法は、自分がこの地球からいなくなればいいことはわかっているけど、みんなそんな自明のことはさておいての話の展開になるものです。

情況を生きる 与えられた条件の中で生きる そんな自明のことに気づいた他火(たび)でした。(今木義和)

中国黄土高原緑化ワーキングツアーに参加して

笹川 憲勝 (イオンリテール労働組合)

たくさんの方々との交流と植林活動がとても良い思い出となりました。

サントリー労働組合のみなさんや東北電力のみなさん。日本では、なかなか接点のない方々と「木を植える」という同じ目的を持って行動することはとても貴重な体験となりました。いろいろな人と行動するには、目的を共有することが大切であり、会社で仕事をするうえでも必要であることを再確認することができました。

村の人々との交流では農村の生活スタイルをそのまま見せていただきました。厳しい環境の中で生きるために、台所のコンロで出た熱を寝床の暖房に再利用したり、少ない食材を活かすために、食べられる植物をたとえ味がなくても煮て、味のある食物に混ぜて食べたりしていることなど、想像以上に質素な生活をされていました。「便利なのが当たり前で不便に不満を持つ私」、

「私から見れば不便だが、少しの便利に感謝する農村の人々……」多くのことを考えさせられました。

小学校訪問での子どもたちとの交流では、言葉が通じない分、なぜか楽しい不思議な時間を体験できました。伝える気持ちと聴く気持ちがあれば伝わるし、お互いが受け入れることの重要性を学びました。

気合の入っていた植林作業は最初お手伝いにもなっていないような感じで、

申し訳ないというか、不完全燃焼みたいな感じでしたが、最終日に2日かかる作業を数時間で終了させることができたこと高見さんから

教えていただいたときの達成感は疲れもふっとぶくらい嬉しいものでした。

短い期間でしたが、このツアーに参加して貴重な体験をたくさんしました。たくさん考えました。また、GENの活動が中国で素晴らしい功績を残していることも感じる事ができました。今後、自分にできることは、今回の体験を伝えていくこと。次の方へバトンタッチしてワーキングツアーを更に盛り上げていくことだと思います。いつかまた、成長した木を見にいきたい。その日を楽しみに頑張ります。

たくさん感動ありがとうございました。



「すごい仲間」と思いをひとつに

入江 秀和 (サントリー労働組合本部)

イオンリテール労働組合のご厚意もあり、好評であった昨年のツアーに引き続き、イオンリテール・サントリー労働組合での中国黄土高原緑化ワーキングツアーを開催致しました。

参加者は、サントリー・サントリーフーズ労働組合から11名、イオンリテール労働組合から18名と総勢29名にの

ほり、若手から年配の方まで、とても活気のある元気なツアーでした。

今年は、「沢山植えてきたい!」という参加者の思いが届いたのか、現地の気候の関係もあり、植林をおこなう機会にたいへん恵まれ、現地でご一緒させていただいた東北電力総連と力を合わせ約3,500本もの木を植えさせていただきました。

また、大同市や植林の歴史について丁寧にご教授いただいたことや、民家への訪問や現地の小学生との交流を実施させていただいたことなど、大人数のツアーにも関わらず本当に盛りだくさんの貴重な経験をさせていただきました。



最終日の総工会主催の歓送夕食会においては、高見さん・遠田先生や中国で受け入れてくださった方々をはじめ、同じ思いを持った仲間を思い起こしながら作った替え歌「すごいなまの歌」を東北電力総連も含めて全員で熱唱しました。同じ思いを持った仲間が、一つになることができ、とても熱い気持ちになりました。

日本とはまったく違う広い黄土高原の環境の中で、私もそうですが、多くのメンバーが自らの価値観を大きく広げ、何かを感じ取ることができたと思います。

これだけの経験をさせていただいた、GENには本当に感謝の気持ちがたえません。

高見さんも、著書の中で、中国での植林活動についての継続していくことの大切さとその難しさについて述べられておりましたが、まさにその通りだと感じました。

こうした思いを忘れずに、今後も活動を継続していきたいと思います。

植物屋のこぼれ話 (続編) その25

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学客員教授)

●何でやねん

このごろ後期高齢者になったせいか自分の身体と世の中のアンバランスが気になってしかたがない。自分の身体の方はさておき、世間のアンバランスを少し書かせてもらおう。

世の中不景気だからと途方もない赤字を増やしている政府は2~3年前に赤字を減らすといきまっていたのと同じ政党の指導者がこんなことをやっているのである。「とりあえずいまの不況を脱出するため」といっているが不況が好況になる保証はない。数年前何兆円と黒字だった大会社が赤字になったといって社員の首切りをする。いったいだれが働いて何兆も儲かったんでしょかね! その金は今どこにあるんかね! 有能な仲間の首を切るのは何でやねん! 世間はものすごいアンバランスになっているのと違うかね。

このままでは日本はやがて沈没するんじゃないだろうか!

●人口爆発と人口密度

子どもが減って人口増加に歯止めがかかってきた、というニュースが流れると人口が減ると勘違いしている人がいる。年々寿命の伸びる日本の老人が人口減少に歯止めをかけている。世界全体では人口は増えつづけ、増加どころではなく爆発だとさえ表現している学者がいるのである。日本の人口の20倍の2大国が経済発展をつづけている。これらの国の経済発展は寿命の伸びと関連しているから、人口は減らない。人口が増え、経済発展で消費経済が嵩むと資源が枯渇する恐れがある。現実にはレアメタルが世界的に高騰している。水と緑しか資源のない日本はあらゆる資源を輸入して加工して販売しその利益で生活している。それが高騰

すれば20倍の人口のある大国に勝てるわけがない。それは食糧にもあてはまる。1950年の日本の人口は7,000万人、農家の人口比率は70%、食糧増産にはげんでも食糧は半分も不足した。いま約2倍の人口をかかえ農家の人口比率はたったの5%にすぎない。将来地球の人類は何億人も餓死する、と予告する学者があるがその真っ先に大量に餓死するのは日本と北欧であろう。日本の場合それは10年か20年後に始まる可能性がある。その根拠はここでは伏せておこう。

●工場で食糧を?

先日、ある大学の農学部で聞いた話だが、学生の半分くらいが将来は食糧は工場で生産できるようになるから心配ない、というのである。私が子どものころは同じことを考えていた。しかし、いくら科学が発展しても光合成の源になるエネルギーは太陽しかない。これを室内に取り込んで多くのエネルギー・ロスをしてまで室内で食糧生産をする意味はない。デンプンや脂肪、

タンパク質が簡単に合成できることはない。何億人もの食糧は確保できない。人間は宇宙で生活できない。今後いく

らがんばっても何億人もの人間が宇宙で暮らせる保証はない。それまでに地球のあらゆる面での限界がやってきて

減じるしかない。それが何千年も未来のことではなく意外に近いことを悟るべきである。

黄土高原史話〈45〉

「河清」はやはり植林で

人あり、王星光・彭勇「歴史時期的“黄河清”現象初探」(『史学月刊』2002年第9期)と、汪前進「黄河河水変清年表」(『広西民族学院学报(自然科学版)』第12巻第2期、2006年5月)を送ってくれました。これをベースに数え直すと、「河清」なる現象、後漢の桓帝延熹八年(165)から昨2008年までの1843年間に111回、つまり約17年に1回の割合で起っている。したがって前回、「約32年に1回」と書いたのは、お詫びのうえ訂正ということに。

2論文が引く資料によると、「河清」は最長期間で1ヶ月、範囲的には2000里に及ぶこともあったようだ。

いま、内蒙古自治区の托克托県河口鎮より上流を黄河の上流域、河口鎮から河南省三門峡までを中流域、それより以下を下流域とすると、不明なものを除き、「河清」は

上流域——甘肃省蘭州などで4回

中流域——陝西・山西両省間の龍門・

谷口 義介 (摂南大学教授)

蒲州・永寧などで23回

下流域——河南・河北・山東の各省内で80回

起っている。下流域で圧倒的に多いが、そこでは川幅が広くなり、流れが緩やかになることによって、水中の土砂が川底に沈殿し、いわば黄河が上澄みの状態になったから。

また「河清」を記録どおり旧暦の月ごとに分類してみると、1月-14回、2月-6回、3月-5回、4月-10回、5月-7回、6月-2回、7月-3回、8月-7回、9月-8回、10月-1回、11月-6回、12月-12回、となる。(ちなみに春-1回、夏-1回、秋-1回、冬-2回とあるが、旧暦1~3月が春、4~6月が夏、7~9月が秋、10~12月が冬に入る)。

いうまでもなく、旧暦は新暦より1ト月遅れだから、このうち最も「河清」の起っている12月と1月は新暦だと1月と2月で、雨の降らない真っ最

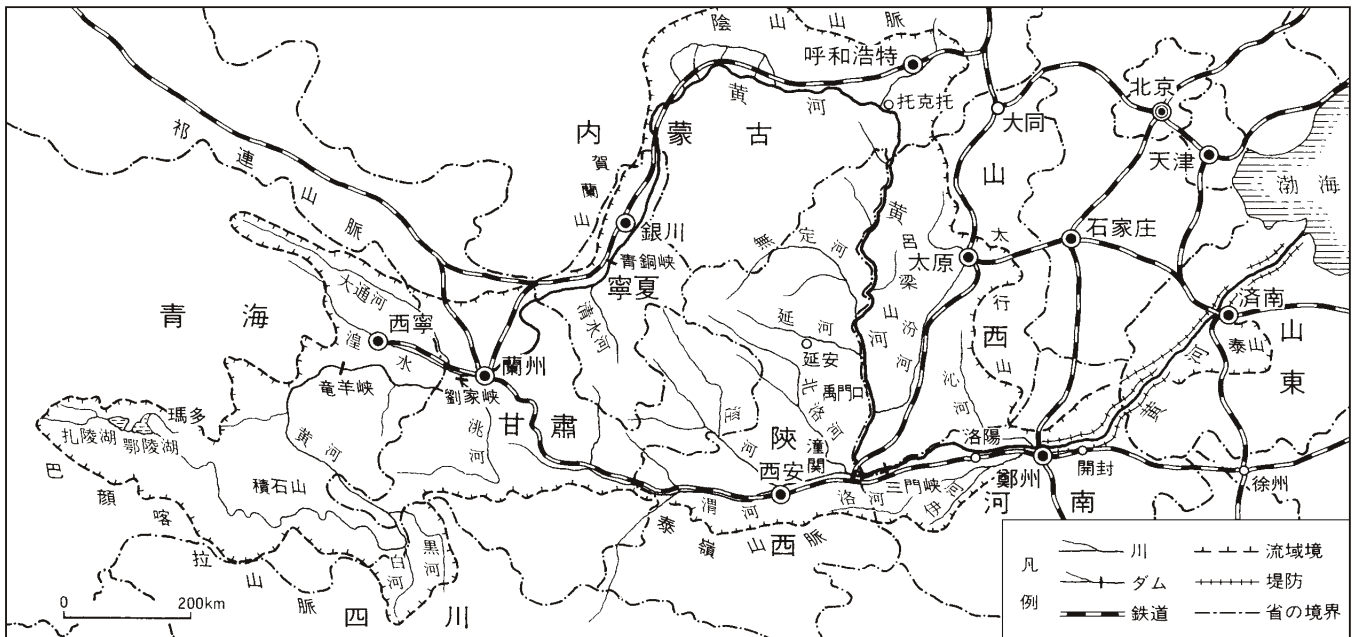
中。反対に「河清」がほとんど起っていない6月と7月は同じく7月と8月で、降雨量の多い時期。つまり、雨の少ない季節には「河清」の頻度が高く、逆に雨季の夏には黄濁した水が流れ出てくるわけで、「河清」は少ない。

では、含砂量が多く濁水の源流区となっている黄河中流域で、昨08年6月、「河清」が起ったのは、いかなる理由によるのか。

じつは、黄土高原では数十年に1度といわれる早魃で、雨量が少なく、黄河の流量も極度に減少。加えて、壺口瀑布(前回掲出の写真)の上流に造られた万家寨ダムが土砂を堰き止め、それゆえ数年前から河の色が変わった、と。「以前はもっと黄色かったが、いまは水が青くなった」(地元の副県長談—渡辺齊『水の警鐘』による)。

こうみえてくと、「河清」という現象、単純には喜べない。

もっと降ってくれなければ困るけれど、黄土高原の緑化によって、夏場の雨は濁水にさせず、乾季には保水した清水をチョロチョロ流す。それが「河清」の王道だろう。



黄河流域概略図



国際協力・NGO

スタディツアー合同説明会

夏にスタディツアーを実施する NGO が集まり、ツアーについて情報提供する場です。どんなものか聞いてみたいという人も、気軽にどうぞ！

●日時：6月21日（日）13時30分～16時30分

●場所：大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室（大阪駅前第2ビル5F tel. 06-6345-5000）

●参加費無料、参加申込み不要

★バリ島無料往復チケットが当たる抽選会あり！

来場随時、各 NGO のスタンプを集めると16時からの抽選に参加できます。

《参加団体・行き先》（予定）

アクセス－共生社会を目指す地球市民の会 [フィリピン]

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

ニランジャナセワサンガ [インド]

緑の地球ネットワーク [中国]

Link～森と水と人をつなぐ会 [タイ]

シャプラニール＝市民による海外協力の会 [バングラデシュ]

プラビーダの会 [コスタリカ、キューバ]

環境文化 NGO・ナマケモノ倶楽部 [ブータン、オーストラリア]

ボルネオ保全トラスト・ジャパン [マレーシア、ボルネオ]

PHD協会 [ネパール、インドネシア、ビルマ]

マイチケット [タンザニア、韓国、サラワク]

●主催：スタディツアー合同説明会実行委員会

●問合せ：マイチケット荒川さん（尼崎市武庫川町4-27-1 tel. 06-4869-3444

e-mail : arakawa@myticket.jp

http://www.myticket.jp)

ご挨拶

事務局の会田伸子よりお知らせがあります。私は今春結婚し、夫の上海転勤に伴って7月初旬で GEN 事務局を退職することになりました。これまで会員の皆様、協力企業の皆様に大変お世話になりました。GENを通じて、全国各地の様々な分野で活躍されている、幅広い年齢層の方とお会いすることができました。たくさんの人生、生き様に触れる機会を与えていただき、実り多き5年半となりました。また事務局での仕事を通して、GENの活動は協力者の皆様お一人お一人のお気持ちと行動で支えられているということを日々感じました。今後も縁あって同じ中国におりますので、上海から GEN を応援させていただきます。本当にありがとうございました。